

ドボク管理 ECOユニット委員会 環境学習「プロジェクトWET」



スライドによる学習

はじめに

当社では、東京商工会議所が主催するエコユニット登録を行っており、CSR(企業の社会的責任)の一環として、eco活動を行っています。今回は、新入社員の環境教育を目的として行った学習会とその中で実施した「プロジェクトWET」について、ご紹介したいと思います。

環境学習会

学習会では、①組織統治、②人件、③労働慣行、④環境、⑤公正な事業活動、⑥消費者課題、⑦コミュニティの社会的、経済的発展の観点から、企業が社会に与える影響について学びました。

このうち、環境について掘り下げて、eco検定やエコユニット活動について学習しました。



手作リテキスト

当社のエコユニット活動

- **CO2排出量削減**
電気、ガス、油、水、紙などの使用資源削減
- **資源の収集**
エコキャップ・リングプル・紙などの再利用
- **美化活動**
道路や公園の清掃、河畔林の植樹活動
- **エコ設備の利用**
スカイキャッチャーやエコカーなどの利用
- **啓蒙活動**
地域情報紙の発行、eco検定勉強会開催など

プロジェクトWET

続いて、「水の大切さ」をテーマとして、プロジェクトWETを行いました。プロジェクトWETとは、水や水資源に対する認識・知識・理解を深め責任感を促すことを目標として開発された「水」に関する教育プログラムです。

アクティビティ①：青い惑星

まずは、アイスブレイク(緊張をほぐすためのきっかけ)として、「青い惑星」というアクティビティを行いました。「青い惑星」は、地球儀型のビーチボールを投げ合い、地球上の海と陸の表面積の比を統計的実験により比較し、地球が青い惑星と呼ばれる理由について考えるアクティビティです。実際に行ってみると、回数を重ねるにつれて、海と陸の比率(約7:3)に近づいて行きました。



地球儀型ビーチボール

アクティビティ②：驚異の旅

次に、地球の表面上の約71%が水であることを知ったうえで、実際に人間が使うことのできる水は、どの程度あるのか? 「驚異の旅」というアクティビティを利用して考えました。「驚異の旅」は、自身が水の分子となってサイコロを転がし、出た行き先(水の存在する場所)に移動を繰り返すことで、水循環を体験するアクティビティです。水の状態や移動経路を体験することで、実際に使うことができる水がわずかであることを実感しました。

アクティビティ③：余波

最後に、災害や被害損失などを考えるアクティビティ「余波」を行いました。「余波」は、洪水のシミュレーションを行い、経済損失の推計や人間が受ける被害について考えることができます。本来は、格子状にマスを並べて行うのですが、建設コンサルタントとしての特徴を生かし、地図やマイラーを利用し、浸水範囲を設定しました。また、水のオリンピックというアクティビティを活用し、順位付けを行うことで、立地条件や建物の種類などを分類し、それぞれに応じた経済損失や防災面の費用対効果について考えました。



サイコロ

記録シート



ビーチボールによる統計実験

水のオリンピック



洪水シミュレーション

おわりに

参加者からは、「CSRやeco検定を知ることができた」、「水の大切さやエコ活動、防災について考えることができた」、「費用や土地利用の状況、環境への影響など、防災の難しさを考える良い機会になった」、「私のこれからしていく仕事がどれほど社会に影響を与えていくのかを考えさせられた」などの声が寄せられました。このように当社では、社員の環境意識を高める活動を行っています。現在、当社には、3名のプロジェクトWETエデュケーターが在籍しています。このような活動を通じて、地域社会に貢献していきたいと考えています。

注意：プロジェクト WET のアクティビティを使用できるのはプロジェクト WET ジャパン認定のファシリテーターが指導する講習会を受講され、エデュケーター以上の資格を得られた方のみとなっております。日本では、公益財団法人河川財団が、プロジェクトWETジャパンとして活動しています。興味のある方は、以下 URL をご参照下さい。
<http://www.project-wet.jp/>